

広大から海外へ留学している若手からの便り

バーゼル大学留学便り

野田 祐子 大学病院 麻酔科 助教

2021年5月から2022年9月まで、スイスバーゼル大学 Department of BiomedicineのSusan Treves教授とFrancesco Zorzato教授が主宰する研究室にお世話になりました。研究テーマとしては、悪性高熱症の原因遺伝子変異の機能解析を行ってまいりました。ボスのSusan Treves教授とFrancesco Zorzato教授はともにイタリアの大学の教授も兼任していて、骨格筋疾患、特にリアノジン受容体遺伝子変異の領域では世界的に高名な先生です。研究室の規模は大きくありませんが、雰囲気はとてもよく、研究室のメンバーとディスカッションしながら楽しく有意義な研究生活を過ごさせていただきました。

研究室のあるバーゼルはスイスの北西部、ライン川沿いに位置しており、スイス第3の都市です。また、ドイツとフランスと国境を接する街でもあり、ジュネーブに並ぶ国際都市でもあります。治安はとてもよく、物価が高いことを除いては大変住みやすかったです。

私がスイスに渡った当初は、まだCOVID-19による海外渡航の制限が厳しい状況でした。未曾有のパンデミックで世界中が落ち着かない状況での留学はとても不安でしたが、たくさんの方々を支えていただき、留学を終えて無事に帰国いたしました。今後は、この留学での学びを研究に活かしていきたいと思っております。

最後になりましたが、留学の機会を与えていただき、貴重な経験をさせてくださった麻酔科 堤 保夫教授ならびに医局の先生方に心より御礼申し上げます。



研究室のメンバーと一緒に(筆者 前列、右から3番目)

編集後記

秋の訪れとともに、新型コロナウイルス第7波がようやく収まり、人々の生活も少しずつではありますが、日常を取り戻しつつあります。プロ野球は観客の人数制限を撤廃して日本シリーズが行われ、政府も「屋外でのマスク着用は原則不要」というルールを打ち出しました。BioMed News第8号発刊にあたりまして、第4号を最後に休載しておりました「Air Mail (海外からの便り)」が2年ぶりに復活したことは喜ばしい限りです。

本号では、2名の新任教授のご挨拶と2名の教授の座右の銘に加えまして、霞地区で初めて実施したクラウドファンディングのその後を紹介しました。また、研究面では、丸山先生の論文紹介と2名の教授による研究最前線が掲載され、非常に充実した号となっております。最後になりましたが、本号発刊に際しましてご協力頂きました諸先生方、広報委員の先生方、ならびに関係者の方々に心よりお礼申し上げます。

2022年11月 広報委員 加来 真人

2022年(令和4年)11月発行

編集発行：広島大学大学院医系科学研究科広報委員会

住所：〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号

電話：(082) 257-5013 (霞地区運営支援部総務グループ)

E-mail: kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

URL: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/bhs>